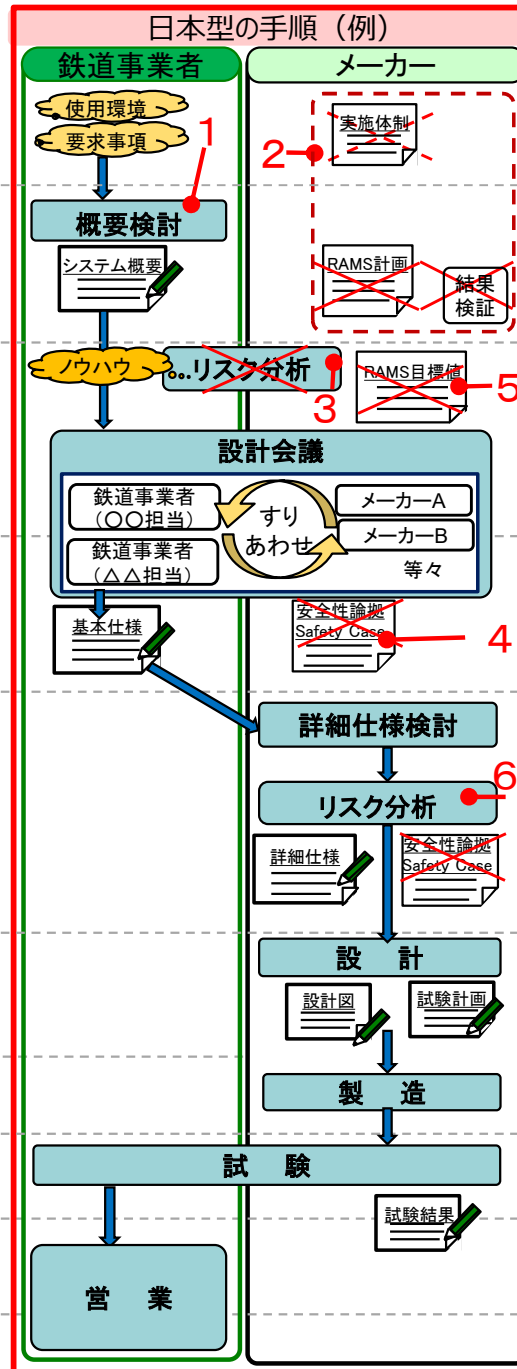
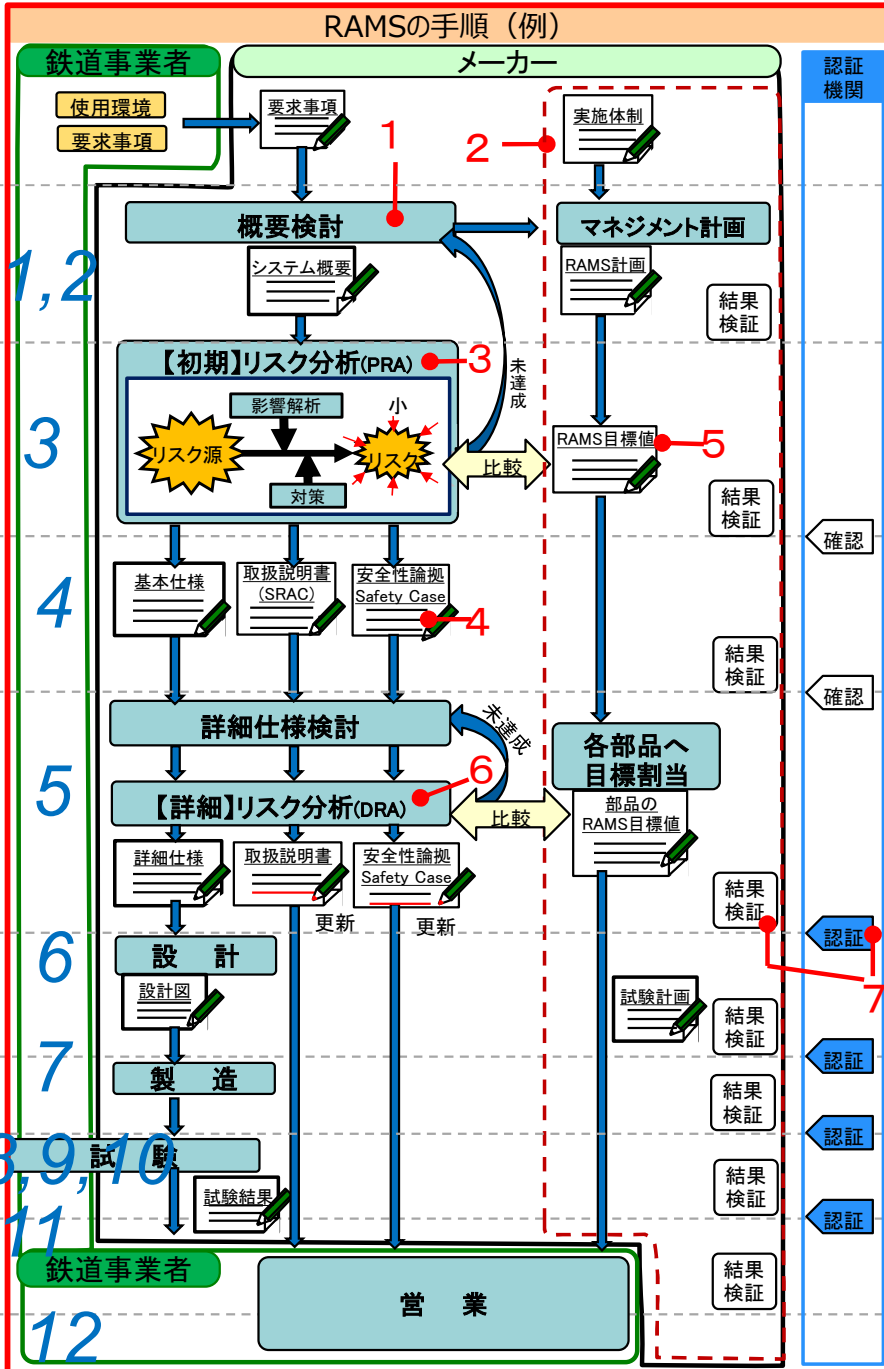
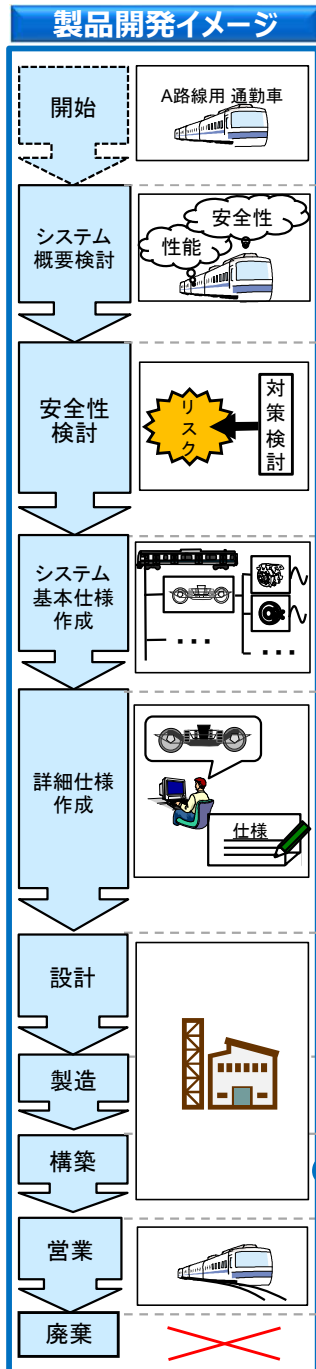


RAMSの製品開発手順と日本型の手順との比較



- #### 主な違い
- 鉄道事業者の関わり**
RAMS: メーカーが開発を主導。安全性の立証のためにRAMSを利用する。
日本: 鉄道事業者が主導。
 - マネジメント重視**
RAMS: 各段階で計画→実行→チェックを行うことで安全性を確保する(マネジメントを重視)。
日本: 各担当者の資質が高く、安全が確保できる。
 - 3~4 リスクベースアプローチ**
RAMS: 想定されるリスクを確実につづせる計画・能力を、安全の論拠(証拠)としてすべて記録。
日本: 頭の中で検討できるため、この段階でのリスク分析は不要。そのため記録は残らない。
 - 品質目標値の有無**
RAMS: 目標を決め、バランス良く達成。
日本: 目標値は決めない(相場観はある)(→過剰スペック気味)
 - トレーサビリティ(一貫性)**
RAMS: 前後の段階とつながる形で実施する。
日本: リスク分析は行われるが、システムとの関連性が見えにくい。
 - 評価の中立性重視**
RAMS: 安全性が必要なもののほど検証や評価者の中立性を重視。第三者機関の評価(認証)も必要とする。
日本: 中立性は重視しない。